

学ぼう!遊ぼう!みんなの日野川学校 (令和5年7月29日)

日野川流域にお住いの親子など17名にご参加いただき「学ぼう!遊ぼう!みんなの日野川学校」を開催しました。

午前はカワコ公園で、日野川漁協さんによるアユの放流を合図に観察会が始まりました。あっという間に川の中に消えていったアユを追いかけて、生き物が隠れている石の裏や草の茂みの中を探ります。珍しい魚や昆虫を次々と捕まえてくる子どもたち。講師の先生からも驚きの声があがります。こうした体験をきっかけに、子どもたちが自然について興味を持ってくれることを願って、生き物の図鑑や模型などをプレゼントしました。最後は、クイズを交えた楽しい解説で盛り上がりました。



準備は?
OK!



捕まえたよー

午後からは滝山公園で、トンボやカエルを追いかけてました。暑い夏の日でしたが、日野川の流域に棲む生き物に直接触れ、楽しみながら自然環境の大切さを学んだ貴重な一日となりました。



川海の繋がり体験 (令和5年7月2日)



毎年7月の第一日曜に行われる日野川一斉清掃に合わせて、日野川河口部の日吉津海岸で外来植物オニハマダイコンの除去作業を行いました。藤原自然保護監視員から、生態系を崩す恐れがある外来植物の影響の大きさと対策の必要性について解説があった後、暑い中、ゴミ袋の山ができるくらいまでがんばってもらいました。



砂地に生えるオニハマダイコンは抜きやすく、ゴミ袋はすぐにいっぱい。



外来植物
オニハマダイコン

おかげで、30袋以上除去でき、海岸の広い範囲の環境が守られました。

オニハマダイコンの除去作業後は、海岸周辺の自然観察会です。和名の由来が葉のザラザラした質感にある黄色の花の「ネコノシタ」やピンク色の花を集まって咲かせる「ハマナデシコ」といった海岸部特有の植物について解説を聞きながら見て回りました。皆さん、作業の疲れも見せず、一方に資料、もう一方にはスマホを手に、熱心に観察されていました。



ハマナデシコ



ネコノシタ

最後は日野川漁協のアユの種苗生産場を見学し、森下場長から河川環境や鮎の生態について教えていただきました。子どもたちは実際にアユに触れることができ、楽しい思い出になったようです。

源流から77km、美保湾に注ぐ日野川の締めくくりとなる日吉津海岸。ここもまた、日野川の大切な一部です。この日の活動で日野川の環境がよりよいものになりました。



日野川の源流と流域を守るために

日野川水系漁業協同組合 種苗生産場
場長 森下 尊士（もりしたたかお）



はじめまして、日野川水系漁業協同組合（日野川漁協）で働きながら、日々、魚と日野川に接する生活をおくっています。一部の会員さんには今年7月に、「川海の繋がり体験」で、日吉津にある（アユの）種苗生産場を見学していただきました。そのときにもお話しさせていただきましたが、日野川の現状について心配している者の一人です。

私の仕事は、遊漁者の皆さんにたくさんのアユを釣ってもらうために、アユを育て日野川へ放流することです。放流されたアユは、川で餌のコケ（付着藻類）を食べ、寝ることになります。大雨が降れば、濁流と化した日野川のどこかで、流されないように頑張らねばなりません。また、病気（冷水病他）が発生しても、人間のように注射を打ってもらったり、薬を処方してもらえないので、自力で耐えて生き残るしかありません。つまり、求められるのは「元気な鮎」です。日野川には毎年、早い年には3月から、日本海で生き残った天然アユが遡上してきます。日野川漁協ではこれら天然アユを親として採卵し、遺伝子的に天然アユと同等な種苗を育成することを目標として頑張っています。

実は日野川には秋になるとサケ（シロザケ）が帰ってきます。しかも、自然産卵が毎年確認されている河川としては、日野川は世界南端の河川とも言われています。このサケも様々な要因によって減少しており、日野川漁協ではこの資源を絶やさないためにサケの人工ふ化事業も行っています。近年、この貴重なサケの卵を近隣の小学校（車尾、岸本、溝口）へ預け、子どもたちに餌やりや水換え等のお世話をしてもらい、最終的には子どもたちの手で日野川へ放流する活動も行っています。子どもたちにはこの活動をとおした授業で、日野川や水の大切さを学んでもらおうと色々なお話しをさせていただきます。

その際、日野川の水質について考えてもらうために、小さなガラス瓶に入れたタバコの吸い殻を持参します。子どもたちの目の前でたった一本の吸い殻からどんな汚い水が生じるかを直接見てもらい、たった一本の吸い殻であっても拾って持ち帰ることの意義を知ってもらいます。また、日常生活の中でできることとして、蛇口から出てくる水についてもお話しします。使われた水はほとんどの場合、汚れて排水口から流れます。そうした汚れた水は最終的には処理場で浄化された後に日野川へ帰って来るのですが、完全に元通りになるわけではありません。



吸い殻を入れた
直後(左)と20分経過後(右)

そもそもの水は日野川からの水なので、大げさかもしれませんが使われた分だけ日野川の水が少なくなっているとも考えられます。授業では、命がけて4年の長旅から帰り、命と引き換えに産卵をするサケのすごさについてお話しします。そのサケが、生まれた日野川に帰って来た時に、「あれ？日野川に水が無い！どこで産卵したらいいの??」なんてことにならないように、日野川の水がもっと綺麗で、たくさん流れ続けるために、子どもたちにもできることを考えてもらいます。ある小学校でこの話をした時、前の方の席にいた元気な男の子が何だかモジモジしています。授業後、みんなからの感想とお礼のお手紙をいただきました。その中に、その男の子からの手紙がありました。そこには、「僕は今まで手を洗う時、石鹸をたくさん使って遊んでました。ごめんなさい。これからは手を洗う時に石鹸を使わないようにします。」とあります（笑）。返事で、「ちゃんと手を洗う時には石鹸使って洗ってね。でも、余分に使うのはやめようね！」と伝えたのでした。

藤原自然保護監視員の季節の植物紹介 ～種子の形が面白いアオツツラフジ～



冬になると青黒いブドウのような姿の果実が蔓にぶら下がっているのを見かけます。これは一体何なのでしょう？アオツツラフジといいます。果実をつぶしてみると、中からアンモナイトの化石に似たような種子が出てきます。

見つけたらつぶしてみてください、ワクワクして楽しいと思います。



日野川の源流と流域を守る会

会員 募集中!

当会の活動は会員の皆さんに支えられています。

「日野川を日本一美しい川」にするため、日野川の源流と流域を守る会の活動に参加しませんか？

当会の活動に興味をお持ちの方は、入会手続きや会費などについて、事務局までお気軽に御相談ください。

【お問い合わせ方法】

・Eメール・ファクシミリ

常時受付・内容確認後に御連絡させていただきます。

・電話

月～金曜日 8:30～17:15（年末年始、祝日等除く）

日野川流域憲章

【前文】

私たちは悠久の時の流れの中で、多くの恵みをもたらしてくれた日野川、その流域のすばらしい自然・環境を守り、日野川の清流化に向けて活動します。

日野川はたくさんの動植物の生命を育み、たくさんの人たちの生活も支えてくれています。

また、日野川流域には伝統ある生活文化・芸術が育まれています。

私たちは日野川の歴史・自然を学び、よく理解して、より豊かできれいな日野川の流れを後世に残すために、みんなで力をあわせて活動します。

そのために、ここに「日野川流域憲章」をつくり、多くの人たちの参加・協力をよびかけます。

【日野川流域憲章の理念】

- ・日野川流域の自然・環境を守り、川と私たちとのすばらしい共存に努めます。
- ・日野川のきれいで豊かな流れが、いつまでも続くように美しい緑の森を守り、育てるように努めます。
- ・日野川流域の交流・連携をすすめます。
- ・日野川流域の歴史・生活文化を学び、その知識を次世代に引き継ぐように努めます。
- ・日野川流域に培われてきた、さまざまな価値ある魅力を大切にして、継続的な地域の発展に努めます。
- ・日野川流域を愛する人たちの輪が広がるように努めます。

平成20年8月23日

日野川流域憲章制定実行委員会